

月刊 みんなねっと

4
2021



新しい生活に向かって チアキ

特集 神出病院事件から



公益社団法人 全国精神保健福祉会



みんなのわ — 読者のページ 2

特集 かんで 神出病院事件から ……6

- 神出病院事件をうけてありがじょうけい（有我讓慶） 6
- 精神保健医療福祉の改善に向けて（新銀輝子） 8
- 精神医療国家賠償請求訴訟がめざすもの（古屋龍太） 10
- 新しいステージに進んでいる日本の精神医療（氏家憲章） 12

多事彩々 密室での支援（野村忠良） 14

みんなねっと相談室から(第24回) 息子さんへの期待 16

子ども・きょうだい・配偶者 家族いろいろ(その12) 家族会と出会い元気と笑顔が出てきた 18

リレー連載「リカバリーをめぐる、対話のように」⑦

就労移行で学んだことについて 田村大幸（対話）先崎輝夫 20

知りたい！聴きたい！こんなとりくみ(第1回) 障害のある人の芸術・文化活動
社会福祉法人 ゆうゆう アールブリュット推進センター Gently 24

カンタンてめき術(料理編) その7 冷蔵庫の残りものでできるあんかけ焼きそば 29

《連載4》ひきこもる人と家族への支援から見えてくること [悲しみをいやすハンモック](安保寛明) 30

母と暮らす 第1回 小林エリコ 34

医療費助成制度《6》

重度心身障害者医療費助成制度を精神2級まで拡大をめざして 36

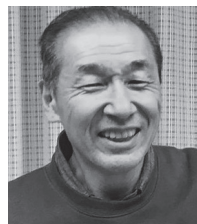
お知らせします みんなねっとの活動 38

神出病院事件をうけて

虐待を防ぐ権利擁護の仕組みが必要

認定NPO法人大阪精神医療人権センター理事

ありがじようけい
有我謙慶



神出病院事件とは

2020年3月、神戸市の郊外にある神出病院で虐待事件が発覚し、看護師ら6人が入院者への準強制わいせつや暴行・監禁等で逮捕され、10月に全員の有罪が確定しました。

被害者は50〜70歳代の7人の男性入院者です。裸にしてトイレで水をかける、柵付きのベッドを逆さにして監禁する、頭を粘着テープでぐるぐる巻きにする、床や入院者の陰部に塗ったジャムを別の入院者に舐めさせ

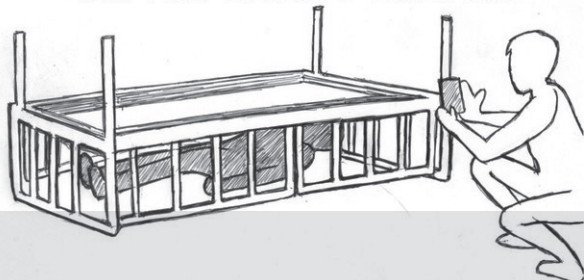
る等のひどい虐待でした。看護

師らは入院者をからかい、スマホで撮影して楽しんでいました。同病院では以前から虐待が常態化し、上司も含め職員は気づいていても、外部に伝わることはありませんでした。偶然、別の事件の捜査でその動画が見つかり虐待が発覚したのです。

虐待が起きる構造的な問題

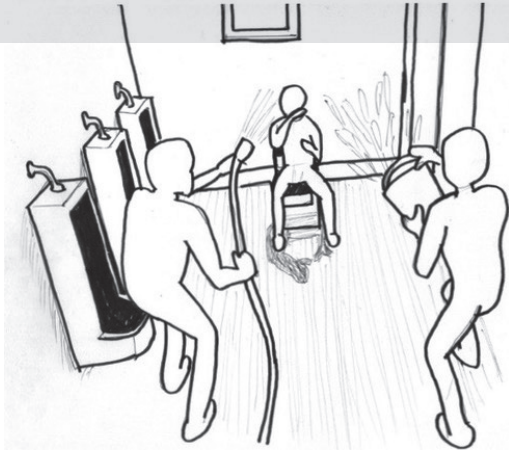
精神科病院における入院者虐待事件は毎年のように起きています。当センターに寄せられる

ベッドを逆さにして患者を監禁し
虐待の様子を面白がって動画に撮る



相談からしても、発覚するのはその一部にすぎません。精神科病院にはその閉鎖性から虐待の起り得る構造的な問題があり、同病院の事件を例外的な事

患者を全裸にしてトイレで水をかける



案とみることはできません。

精神科病院において、入院者の個人の尊厳を基礎とする適正な医療が提供されなければならぬことは言うまでもなく、虐待の防止をはかるとともに、早期

発見・早期対応が必要です。

そのため、当センターでは、2020年12月に大阪府に対して、以下の点につき厚生労働省に積極的に要請することを申し入れ、厚生労働省関係部局に要請書を提出しました。

- 1 精神科病床を有する医療機関における虐待について、被虐待者の早期発見・早期救済を図るため、障害者虐待防止法及び高齢者虐待防止法を改正し、医療機関を通報義務等の適用対象とすること
- 2 大阪府で行われている「療養環境サポーター制度」のような入院者の

立場に寄り添った第三者が精神科病院を訪問する権利擁護活動を制度化すること

虐待を防ぐ仕組みづくりを

神出病院事件は終わっていません。今年1月には同病院で入院者59人を含む73人の新型コロナウイルスのクラスターが発生しました。同病院では、以前、インフルエンザに感染した患者4人を一部屋に閉じ込める違法な複数隔離が行われており、改善命令が出ています。適切な医療の保障も心配です。

尊厳が守られる精神医療の実現のために、虐待を防ぐ仕組み、権利擁護システムを求めていきたいと思います。

精神保健医療福祉の改善に向けて

— 兵家連及び近畿ブロックのとりのくみについて

兵庫県精神福祉家族会連合会（兵家連）会長 新銀輝子

はじめに

令和2年3月に神出病院の6人の看護師・看護助手が逮捕され、10月までに6人すべてが暴行や監禁で有罪判決を受けました。厚生労働省は精神科病院内での患者への虐待を疑い、事例調査を初めて実施し、2015年～2019年の5年間で72件あったことがわかりました。神出病院事件は氷山の一角であり、この問題は看護師のみの問題ではなく、精神医療制度そのものの問題と捉えて改善を訴えます。

神戸市への対応

兵家連は、兵庫県弁護士会、兵庫県精神医療人権センター、兵庫県社会福祉士協会、兵庫県医療ソーシャルワーカー協会、兵庫県精神保健福祉士協会を含めた6団体共同で神戸市に神出病院事件の真相究明と第三者委員会の設置を要望しました。その結果、精神保健福祉専門分科会が9月10日に開催され、14人の会員全員から病院の解体的処分と検証作業の意見が出されました。

10月22日市会環境福祉委員会

で、専門分科会の意見を受けて、①病院長の精神保健指定医の資格取り消しを国に求める、②病院が招集する予定の第三者検証委員会に市が推奨する民間団体を加え市も参加する、③病院職員の研修には外部の第三者も含める、④全入院患者の転退院の意向確認を外部に委託して行う、等が決定されました。

精神科医療の問題点

精神医療の改善に向けての活動は、2020年度のみならず、ねつとの『誰もが安心してかかりたいと思える精神科医療の実現に向けての3つの提言』の中の『精神科医療の一般化の実現』と同様です。

精神医療国家賠償請求訴訟が めざすもの

日本社会事業大学大学院教授
精神医療国家賠償請求訴訟研究会事務局長

古屋龍太



精神国賠の第一次提訴

2020年9月30日、精神医療国家賠償請求訴訟が東京地裁に提訴されました。原告は群馬県に住む伊藤時男さん(70歳)です。NHKの番組「60歳からの青春」(2014年6月放送)や「長すぎた入院」(2018年2月放送)で取り上げられており、ご存じの方も多いでしょう。統合失調症により計45年の入院を経験しましたが、東日本大震災を契機に退院でき、現在はアパートでひとり暮らしをされています。

伊藤さんは、自身の入院体験を踏まえて、長年の入院生活で「施設症」化している社会的入院者を一人でも救いたいと考え、原告となることを決意しました。2021年3月1日の第1回口頭弁論を皮切りに、この国の精神医療のあり方を問う歴史的な裁判が始まります。

精神国賠研の活動

この裁判の運動母体が、精神医療国家賠償請求訴訟研究会(略称「精神国賠研」)です。

2013年に7名の会員でスタートしました。日本の精神医療を抜本的に変えるための国家賠償請求訴訟の可能性を探り、裁判を通した運動を進めることを目的としています。ハンセン病や旧優生保護法訴訟と同じように、個々の病院を訴えるのではなく、国を被告として長年の精神医療政策と行政の不作為責任を問うものです。

入会者は年々増え、当事者や家族をはじめとして、精神保健福祉士・精神科医等の専門職など、現在286名の会員・支援者が参加しています(2021年2月20日現在)。コロナ禍の中でもZoom(ズーム)による例会を行い、専門部会・相談部会・

新しいステージに進んでいる 日本の精神医療

昭和大学付属烏山病院家族会(あかね会)監事 氏家憲章



精神医療の問題を考える時、今、最も重要な点は、入院中心の精神科医療が行き詰まり、入院中心から地域ケア中心の精神医療への転換が避けられない事態に追い込まれていることです。

精神科病院の「崩壊」の危機

多くの精神科病院で在院患者の減少が進んでいます。在院患者はピーク時に比べて6万7千人の減少です。大規模病院では病床を1000床・2000床・3000床と大幅な削減をおこ

なっています。小規模病院では、

この間5つの病院が廃院し、5つの病院が全病棟を閉鎖、外来のみに縮小するなど、今までになかった動きが起きています。

2019年の全国の空病床は4万5千床です。この数字は、近畿(160病院・4万4床)や、東北6県に北海道を加えた(264病院・4万7千床)病床数に匹敵します。

大幅減少の背景

他の先進諸国では、抗精神病

薬の使用を機に、入院中心の医療を反省し、1960年代から入院中心の精神医療を地域ケア中心の精神医療へ転換(改革)するということが進んでいます。

日本においては地域ケア中心の医療への転換は進んでいませんが、新入院が減少し、2〜3か月の短期入院が増えるというように、精神医療の進歩が反映されてきています。一方、長期入院者の高齢化が進み、死亡・合併症で一般病院へ転院したり介護施設へ移るなど、長期入院者の退院も増加しています。

これは、先進諸国で唯一、精神科病院への入院中心政策を継続している日本で起きている「特有の現象」です。

《第24回》 息子さんへの期待

みんなねっと 相談室から



◆相談内容

「家内が外出をしたので、留守の間に聞いてほしい…」とおっしゃる八十歳目前のお父様からのお電話でした。

「息子は真面目に作業所にバイクで通っています。大学を出ているのにこのままでいいのかと思っているのですが、どう思いますか」という内容です。

*

息子さんは、大学を卒業し順風満帆な社会人として生活をスタートしましたが統合失調症を発症し、それまでの幸せな家族の生活が一転しました。

発症してから二十年以上、息子さんの治療や生活をお母様が支えてきました。現在は息子さんの症状が安定して作業所に

通っています。

症状が安定しているのだから、作業所ではなく社会に出て自分の可能性にチャレンジする欲望がないのだろうかと感じておられるようでした。

発症前の息子さんには、社会で成功することを期待しながら育て、息子さんも期待どおり大手企業に就職しましたが、いつしか精神の病にかかり、長い闘病生活を乗り越えてくれました。

今なら一般の社会人として働けるのではないか、才能があるのにもったいないという複雑なお気持ちを伺いました。

◆話し合ったこと

お父様は、日本の高度経済成長時代を担った自負があり、社

会から脱落してしまつたような息子さんをはがゆいと思う気持ちもあります。優秀な息子さんですから、学生時代の友人も社会で活躍されています。

一方では、社会人として復職できることを願いながら、息子さんとお母様の並々ならぬご苦労をされたこともご存知ですから、ようやくたどり着いた穏やかな静かな生活の尊さもご存知でおられます。

ご家族がたどつた道のりには、お互いに励まし、時には失望して傷つけあつたこともあるのではないのでしょうか。そのたびに乗り越えてきたお母様と息子さんを誇る気持ちがうかがえます。お父さんはもう八十歳です。息子さんの生き方をこのまま



良いと納得しようとされています。

◆感想

将来を期待されながら、精神障害の症状のために能力を活かすことができない悔しさは、はっきり知ることはできませんが、家族が歩んだ二十数年の経験こそ尊い大切な宝物ではないのでしょうか。息子さんとお母様の様子を長い間見守ってこられたお父様も、「二人ともよくここまでがんばってくれたね」と思ってお

られることを感じました。

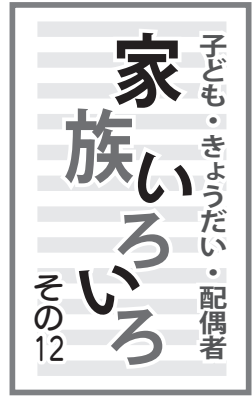
*

症状が突然出現することへの用心や不安が当事者さんたちを弱く見せているかも知れませんが、「弱い時にこそ強い」という言葉を秘めている方々だと思えます。地活や作業所を訪問すると、いろいろな体験をしてきた人たちが、励まし共感し合う温かさとお奥深さを感じます。

自分で判断した行動の責任を負う権利もあり、またその覚悟も持つているはずです。

相談者のお父様には、ご自分の健康に留意され、お母様と一緒にこの先も温かいまなざしで息子さんを信じて見守つていただきたいと思いました。

(岸澤マサ子)



家族会と出会い 元気と笑顔が出てきた

(親の立場) 島袋スミ子

思い返すと三女が高校三年生の時、大学受験をめざし、自ら塾に通っていたある日、塾の先生から電話が入ったのです。

「娘さんが帰る家がないと言っています。迎えに来てください」とのことでした。

迎えに行きました。その時は事の重大さを感じてはいませんでした。

その頃、我が家はある問題を抱えていて、そのことが娘に不安を感じて疲れさせていたんだとばかりに思っていました。

それから間もなく、ある朝のこと、三女は胸に手を当てて、苦しいから病院へ行こうと私に促すのです。私は内科でも受診してもらおうと言うと、長女に早く精神科病院へ受診した方がいいと言われました。私は驚きとまどいました。

精神科の先生は一週間お薬を飲んでみましようね、とのこと一週間が過ぎ、また三か月お薬を飲んでみましよう先生が

淡々とおっしゃいました。

娘は薬を飲み落ち着き、穏やかにになり、私は病気が治ったのだとばかり思い込み、薬を先生に無断で止めさせました。

するとしばらくして、以前よりも激しい症状が現れました。また病院へと通院しました。娘の病状はよくなりません。長女の友人(看護師)がクリニックを紹介してくれました。

先生は「統合失調症です。幻聴が聞こえたりするでしょう？幻聴は現実ではないからね、その区別をしっかりとわきまえてね」とおっしゃいました。私はこの病はただごとではないと思いい、この子が不憫でならない、これからどう病気と向きあつて

就労移行で学んだことについて

田村大幸（対話） 先崎輝夫

《対話者のプロフィール》

田村大幸（ピアスタッフ・施設長）

30歳でうつ病を発症、37歳で双極性障害と診断される。就労移行支援事業所（就労をサポートする福祉施設）でリカバリーのきっかけをつかみ、その後は自身が就労支援員に従事。2020年に「就労移行支援事業所こねくと」を開所。

先崎輝夫（ピアスタッフ・職業指導員）

31歳でADHDと診断され、自身が就労移行を通して特性の把握とセルフイメージの劇的変化を経験した。その経験を生かして、人の埋もれた宝物を採掘するべく奮闘中。

2013年、二人は就労移行で出会う。卒業後、それぞれの道を経て、2020年に事業所を一緒に立ち上げる。今回、出会ってからこれまでの経緯を振り返る。



田村さん

田村 サポートするうえで気をつけていることってある？

先崎 その人のやり方ややりやすさとかを否定しないよう気をつけていますね。こうしたほうがいいよって上から踏みつづすのではなく持つている力を伸ばす感じですね。

田村 そうだよな、移行でサービスを受けていた僕たちもスタートアップの態度に敏感だったから

知りたい！ 聴きたい！ こんなとくみ

第1回

障害のある人の

芸術・文化活動

社会福祉法人 ゆうゆう

芸術文化推進室 学芸員

アールブリュット推進センター

Gentry

大友恵理さん

「始まりを探して」の特徴は？

2021年1月20日から2月20日にかけて、札幌市内2会場と青森県立美術館で、北海道・北東北の福祉とアート「始まりを探して」展（写真）が開催されました。今回は、主催者である社会福祉法人ゆうゆうの大友

さんに、障害のある人の芸術文化活動の現状について伺いました。

この展覧会は厚生労働省令和2年度障害者芸術文化活動普及支援事業の一環で、北海道・青森・岩手・秋田各県の障害のある方の魅力的な作品を紹介しています。

展覧会のテーマや内容については開催エリアの支援センターが話し合っていて、

「始まりを探して」では、作家の創作活動を始めた頃の作品と、その後の作品と一緒に展示することで、その変化をたどり、創作活動にまつわる物語や工夫、意味などを見ていこうという意図があります（写真）。

彼らの創作は、素朴な興味やささやかな行為から始まっているものも少なくないため、もし誰の目にも留まっていなかったら、私たちがその作品に触れることはなかったでしょう。皆さんが障害のある人の表現をより身近に感じて、まわりにある「作品の始まり」を見つけるきっかけになればと思います。

また、コロナの影響で、通常は会場で行っている出品作家と

連載4

ひきこもる人と 家族への支援から 見えてくること

悲しみをいやすハンモック

安保寛明

(山形県立保健医療大学看護学科教授)

この連載が掲載されるのは4月号ですが、私が住んでいる東北地方では東日本大震災から10年を迎えてさまざまな人の物語を考える機会をもっています。安心できる場所を失った時の感覚というのは、なかなか言葉に

しにくいなあと、いつも感じます。

喪失の悲嘆とグリーフケア

先月に話題にしましたが、ひきこもる人の心理過程と喪失による悲嘆の心理過程は、とてもよく似ています。もし私の説がある程度当てはまるとしたら、ひきこもる人やそのリスク状態の人の支援には、喪失に関する悲嘆のケア、すなわちグリーフケアが必要である可能性が十分にあります。

例えば、不登校になった人に対する支援としては、「登校すること」を目標にしてチャレンジすることも大事かもしれません。喪失の悲嘆について寄り添

う支援が必要であるかもしれません。ここでいう喪失とは、「安心できる居場所」「楽観的にいられる場」としての学校や同年代の人とのつながりや教師という家族とは異なる年配者の喪失であるかもしれません。

現代社会はとかく忙しいため、悲しんでいる時間などないという考えが支配的になりつつあります。しかし、自分の気持ちに素直になれる時間をもつことはストレス対処の方略としても重要です。喪失の悲嘆から逃避することではなく適切に時間と方法をとることが、回復を早めるのではないかと感じます。

なお、東日本大震災における

母と暮らす



小林エリコ

第 1 回

はじめまして
小林エリコと
申します



みんなねっとで
一年間連載を
させていただきます

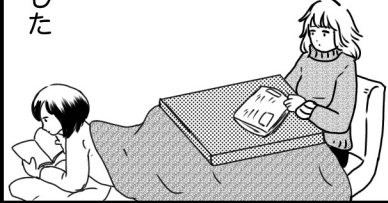
私が精神科に
通院し始めたのは
高校生の頃です

短大を卒業して
就職したのですが
自殺未遂をして
精神病院に入院し
実家に戻ってきました



その後
母親と十年近く
暮らしました
両親は別居中

ようは
引きこもりでした



現在は
実家を出て
自立しています

母と暮らした
十年間について
かきたいと思います



当時
私を悩ませていたのは
薬の副作用による
便秘でした

お腹が苦しい

うーん
うーん

もう三日以上
出てない



下剤飲む

さっき 飲んだ
ばかりじゃない



だって
ずっと出てなくて
お腹が張って
死んじゃう

うーん

あんまり
下剤に頼るの良くないって
聞くけど…
仕方ないのかしら

ヨーグルトや納豆などの
発酵食品を食べたり

半身浴や
ウオーキングなどを
やってみたが
あまり良くならなかった

やっとでた…

一時間もトイレに
こもるなんて異常すぎる
こんな状態で社会復帰
できるんだろうか

一ヶ月後

おや？

ねー
お母さん
なんか最近
快便なんだよ

作ってる料理の
お砂糖
全部オリゴ糖に
変えたのよ
お腹にいいって
聞いたから

医者よりも母の方が凄いと
初めて感じた